

第4回 羽生市立学校適正規模審議会（西・南中学校区）

会 議 録

日 時	令和5年10月5日（木） 午前10時（会議終了：午前11時30分）	
場 所	ワークヒルズ羽生 大会議室	
委員出欠	【出席】 川島委員、多田委員、岸本委員、田邊委員、加藤委員、門間委員、福田委員、立川委員、小林委員、尾城委員、岡村委員、金子委員、山崎委員、小久保委員、長谷川委員、須永委員、漆原委員、木村委員、檜原委員、小峰委員、長谷川委員、秋山委員、清水委員、石田委員 【欠席】 金子委員	
事務局等	細村学校教育部長、米花教育総務課長、蓮見学校教育課長、佐藤生涯学習課長、小林教育総務課総務係長、大橋教育総務課総務係主任	
傍聴人	3名	
会議の内容	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）具体的な計画案について （2）その他 4 閉会	
会 議 録		
1 開 会	司 会 (教育総務課小林)	第4回羽生市立学校適正規模審議会（西・南中学校区）を開会する。 本日、3名の傍聴人がある。
2 あいさつ	委員長	<川島委員長あいさつ>
	司 会 (教育総務課小林)	議事の進行については委員長にお願いします。
3 議事 (1) 具体的な計画案について	委員長	議事に入る。本日の会議は、前回の会議までに委員の皆様からいただいた御意見の中で、具体的な計画案に関するものについて協議するものである。
	委員長	議事の（1）について、事務局から説明を求めた。

	<p>事務局 (教育総務課長)</p>	<p>第2回会議及び第3回会議において、グループ討議・発表により様々な御意見をいただいた。</p> <p>その中で、具体的な計画案に関するものが4点あったので、これを図面上に表示するとともに、関連する小学校の児童数の変化についてまとめた資料となっている。</p> <p>資料1-1についてである。</p> <p>1点目は、羽生北小学校と川俣小学校の再編成である。これは、設備的な面から川俣小学校と新郷第二小学校には2クラス分の教室がないという御意見を基にしたものである。</p> <p>図面上には、羽生北小学校から半径2kmを示した円を表示している。これは、市内の多くの小学校の学区がほぼ2km圏内に収まっていることから参考として表示したものである。</p> <p>現在の川俣小学校の学区のうち、小須賀、上川俣、稲子の一部が2kmを超えてくる。</p> <p>次に、資料2の1ページ目についてである。</p> <p>令和11年度における児童数の見込みについて、住民基本台帳を基に算出したものである。羽生北小学校と川俣小学校を再編成した場合の児童数は、合計で412名、クラス数は、5年生が3クラス、その他の学年が2クラスとなる。これは、羽生北小学校の収納可能学級数の範囲内となる。また、川俣小学校の校舎は、昭和58年に建設されてから大規模改造工事を実施していないため、施設の老朽化も進んでおり、学校施設の集約の面からも基本方針に沿った案であるといえる。</p> <p>2点目として、新郷第一小学校に川俣地区及び岩瀬地区の一部を編入する案である。</p> <p>資料1-1についてである。</p> <p>こちらは、先ほどの設備的な面から川俣小学校には2クラス分の教室がないという御意見と、第2回会議において出された新郷第一小学校を残して岩瀬小学校区の一部と川俣小学校の一部を入れる。新郷第二小学校区は岩瀬小学校区に入れて、それでも対応できない地域の方は個別に対応するという御意見</p>
--	-------------------------	---

	<p>を基にしている。具体的には、川俣小学校区のうち小須賀の全域、上川俣の一部、岩瀬小学校区のうち桑崎と上岩瀬のほぼ全域が、新郷第一小学校から2 k m圏内に入ってくる。</p> <p>次に、資料2の2ページ目についてである。</p> <p>仮に、新郷第一小学校から概ね2 k m圏内にある小須賀、上川俣、桑崎、上岩瀬の児童を新郷第一小学校に編入した場合の児童数は、合計171名、クラス数は、5年生は2クラス、その他の学年は1クラスとなり、基本方針にある1学年2クラス以上には届かない見込みである。</p> <p>なお、4点目の学区の再検討でも触れるが、川俣小学校区のうち小須賀、上川俣は、羽生北小学校又は新郷第一小学校のどちらかから2 k m圏内である。また、稲子は羽生北小学校又は井泉小学校のどちらかから2 k m圏内である。こうした地区では従来の区域外通学によらない学区の再検討も考えられる。</p> <p>次に、資料1-2についてである。</p> <p>3点目は、岩瀬小学校、新郷第二小学校の再編成である。</p> <p>こちらは、先ほどの設備的な面から、新郷第二小学校には2クラス分の教室がないという御意見、第2回会議において出された新郷第二小学校区は岩瀬小学校区に入れて、それでも対応できない地域の方は個別に対応するという御意見、新郷第二小学校は須影小学校より岩瀬小学校の方が近いという御意見を基にしている。</p> <p>資料1-2では、岩瀬小学校、須影小学校のほか、羽生南小学校から半径2 k mを示した円を表示している。</p> <p>これによると、新郷第二小学校区のうち、下新田の全域及び下新郷の一部が岩瀬小学校から2 k m圏内に入ってくる。須影小学校から2 k m圏内に入ってくる区域は、ほぼない。</p> <p>次に、資料2の3ページ目についてである。</p> <p>岩瀬小学校と新郷第二小学校を再編成した場合の児童数であるが、合計で394名、クラス数は、5</p>
--	--

		<p>年生と3年生が3クラス、その他の学年が2クラスとなる。これは、岩瀬小学校の収納可能学級数の範囲内ではあるが、特別支援学級もあるため、教室の改修等の必要性が見込まれる。</p> <p>また、下新郷の一部については、どの小学校からでも2km以上離れているため、基本方針によりスクールバスの検討対象になると見込まれる。</p> <p>4点目は、学区の再検討についてである。</p> <p>こちらは、区域外通学に柔軟に対応していてもいいのではないかと御意見を基にしている。</p> <p>現在協議を進めている東中学校区の小学校の再編成では、三田ヶ谷小学校区、村君小学校区とも最も近い小学校が井泉小学校であったため、学区の再検討は行っていなかった。</p> <p>しかし、西中学校区・南中学校区の小学校の再編成では、資料1-1、1-2のとおり、半径2km圏内に小学校が複数ある地区もあり、先に説明した計画案3点についても、これを進めていこうとする場合、学区を再検討する必要性が出てくる。また、小学校においては、通学距離が遠距離となる地域にはスクールバスを導入するとしているが、可能な限り児童が歩いて通学できることが望ましいことも考えられる。</p> <p>委員の皆様には、多くの計画案を提示することとなったが、学区の再検討を含めるとそれぞれの案が関連してくるため、一括して説明した。</p> <p>適正規模・適正配置の基本的な考え方である「望ましい学級数の維持」、「小中一貫教育の推進及び義務教育学校の設置」、「学校施設の集約」に基づき、御協議をお願いします。</p> <p>事務局からの説明は、以上である。</p>
	委員長	事務局の説明に対し、意見・質問を求めた。
	委員	家から学校まで2kmを超える場合にはスクールバスで通学するという事か。
	事務局	今回示した2kmの円は、市内小学校のほぼ全て

	<p>(教育総務課長)</p> <p>委員</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>委員</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>委員長</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>委員</p>	<p>の学区が2 km圏内に収まるため示している。</p> <p>基本方針では、通学距離が遠距離となる場合にスクールバスを運行するとあるが、2 kmを超えた場合に運行するという具体的な記述はないため、方針が決定してから現在の東中学校区のように準備委員会を立ち上げ、協議するものである。</p> <p>つまり、この段階では未定ということか。</p> <p>未定である。準備委員会で、委員の皆様から御意見をいただきながら決めることになる。</p> <p>資料2の3ページ目(仮)について説明が欲しい。</p> <p>資料2の3ページ、具体的な計画案③の一番下の表が、岩瀬小学校のうち桑崎及び上岩瀬を新郷第一小に編入する場合の人数である。これは、新郷第一小学校に川俣小学校と岩瀬小学校の一部を編入する案があったので、仮に並行して進めると、岩瀬小学校区のうち桑崎と上岩瀬の児童が新郷第一小に行った場合、児童数とその分減るため、それを反映した場合の児童数を記載したものである。</p> <p>この場合、児童数は312人に減少する。しかしながら、クラス数は全ての学年で2クラスが保たれる状況となる。</p> <p>岩瀬小の1年生が61人から53人変わっているのは、桑崎と上岩瀬の児童を新郷第一小に編入すると、8人が新郷第一小に来ると理解してよいか。</p> <p>そのとおりである。</p> <p>資料2の2ページと3ページについてである。新郷第一小から概ね2 km圏内にある大字を編入する場合についての表が2ページにあるが、3ページの一番下の表のとおり、桑崎と上岩瀬を新郷第一小に編入しない場合はさらに人数が少なくなる。そうすると、新郷第一小を残すべきなのか考える必要があ</p>
--	--	---

	事務局 (教育総務課長)	<p>る。1年生のクラスは8人増えるが、新郷第一小の元の1年生が13人、それに桑崎地区と上岩瀬地区を編入しても、小須賀地区、上川俣地区とも0人なので、その辺りを考えるべきである。</p> <p>こちらの案については、最初に申し上げたとおり、2回目と3回目のグループ討議の中で委員の皆様から提出された案を図示し、児童数を算出したものである。事務局として、これを進めていこうということではなく、協議のための資料としてまとめている。</p> <p>御指摘のとおり、資料2の2ページ目、一番上の表が新郷第一小学校の児童数の見込みである。これを見ると、学校全体で70名しかいない状況である。仮に学区の見直しをせず、川俣地区と岩瀬地区からも編入をしなかった場合、70名しかいない新郷第一小学校はどうしていくのかも、この中での協議事項の一つとなる。</p> <p>仮に編入しても、基本計画にある1学年2クラスは達成できない状況である。これをどう考えていくかは同じく協議の内容になる。</p>
	委員長	<p>令和11年度の人数を算定して案の作成をしている。それも含めて、意見をいただきたい。</p>
	委員	<p>再編成の目的は、個人の能力を伸ばすことで、これに異論がある人はいない。その目的を達成する上で、基本的な考えとして、望ましい学級数の維持、1学年2クラス以上、小中一貫教育の推進とある。この基本目標にどこまでこだわるかだと思われる。</p> <p>ここに具体的な計画案が提示された。表の①、②、③に対して、二つの基本的目標を達成しているのは、表の①と③である。②は編成を少し変えたとしても2クラスにならないので、目標を達成していない。そのときに、小学校は例外なく1学年2クラス以上必要ということにどこまで意味をもたせるのかだと思ふ。その辺りを議論すればよいのではないか。</p>
	委員長	<p>再編成の目標として、1学年2クラス以上という</p>

		<p>ことで、新郷第一小に桑崎と上岩瀬を編入したとしても、5年生以外は全て1クラスになってしまう。本当に2クラス以上必要なのか、資料1-1、1-2も踏まえて総合的に意見をいただきたい。</p>
	委員	<p>須影小学校について教えてほしい。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>須影小学校は、令和11年度は児童数が278名、各学年とも2クラスとなる。</p>
	委員	<p>今回の問題は、小・中学校の適正規模と適正配置である。小学校だけではない。今、中学校区をどうするかは東中しか決まっていない。そのため、小学校の再編成と同時に中学校区をどうするのか、そちらも問題だと思う。将来的に、小学校は今の中学校に統合して、最終的には義務教育学校として1か所に集めるということである。どこに小・中学校を置くのか分からないと、今小学校を決めたとしても、また遠い将来に小学校を再編成するか問題になると思う。小学校一年生が、今の中学校と同じ場所に通うことを考えなければいけない。西中も、建て替えるとすればさらに西に、南中はもっと南に建てることになるのではないか。今はその地区に小学校が残るかどうかが、地区の子どもたちが通える範囲なのかが議論されているが、中学校区についても議論すべきではないか。</p>
	委員	<p>議論の順番として、提示された資料より、まず中学校区を議論の対象にということか。</p>
	委員長	<p>他の委員の意見はどうか。</p>
	委員	<p>確かにいずれは中学校に行くので、中学校も加味した案が計画案にあれば、このまま進められるかもしれない。</p>
	委員	<p>数日前の新聞に、小中一貫校についての話題が載っていた。全国でも少しずつ小中一貫校が増え、5</p>

		<p>年生から中学生と同じような勉強をする。そのようなことも皆さんに知ってほしいと思う。これからどんだん一貫校への再編成が始まると書いてあり、実際に他の地区でも始まっている。最終的にはどこを結ぶかである。</p> <p>先ほどの話だが、中学校の一部に小学校を入れて学校にするのだから、中学校は中学校でいいと思う。新聞には、中学校のすぐ隣に小学校ができて連携し、運動会なども一緒にやっていると書いてあった。そういうことを考えれば、今のこの会議があっても、将来また話し合うことになると思う。</p> <p>私が小学生の時は、小中一貫校と同じような状態だった。小学校と中学校が並び合って、真ん中に渡り通路があり、扉を開ければ行き来できる状態で、教科によってそれぞれの設備を使うことができた。</p> <p>小学生でも、技術家庭科のような授業をする際には中学校の特別教室に行けた。それから、当時体育館はなかったので、小学校の講堂に中学生が来ることもあった。授業が同じになることはなかったが、小学生から中学生になるときに全く違う場所に行くわけではなかった。一貫校の良い面と悪い面は一応経験しているつもりであり、運動会も一緒にやっていた。そういう面では小中一貫校や義務教育学校に反対しているわけではない。しかし、少なくとも小学校一年生からずっと遠いところに、それも中学生になったら自転車で通学するときに、通学の距離はデメリットもある。特に今の気候を考えると、自転車ではかなり厳しい。やはり中学校をどこにするかは大事な問題になってくる。</p> <p>今の中学校についてである。岩瀬小学校は、卒業後西中と南中に分かれる。新郷第一小はどんな遠い方でも、西中に行く。西中と南中で今やっていくしかないと思う。今中学校の場所を話しても、建物を建てられるわけではない。市の財源は決まっている。校舎1棟を立てるのに大体20億円かかる。小中一貫校には小学校と中学校で40億円、西中と</p>
	委員	
	委員	

		<p>南中で80億円である。市は払えないと思う。</p> <p>もっと現実的に、今ある中学校の校舎を活かして、小学校をどうするのか議論するべきである。市からいただいた資料を参考に、小学校の統合をどうするか、当初の目的である2クラスにするところを決めていって、再編成していくしかない。結局は通う中学校は大体同じなので、距離は変わらないと思う。新郷第一小の人は卒業後西中に今も通っている。そのため苦労は多分変わらないと思う。結局は、小学校をこの統廃合の資料にあるような形で再編成していくしかない。</p> <p>そもそも、本当にクラス替えが必要なのか。今のままだと1クラス10人を下回っている学校もあるが、それでは少ないと思う。他の委員が言っていたように、小学校について考えるよりも今後の小中一貫のことを考えていくのであれば、やはり中学校をどこにするかも議論したほうがいい。今回示していただいた計画案③岩瀬小と新郷第二小を再編成する案だが、通学が2km以内の部分も多いので、この案がいいと思う。</p> <p>中学校区を先に決めた方がいいという話もあったが、小中一貫校になるのはかなり先の話になると思う。保育園や幼稚園から小学校に上がる際も、別々になることは多い。小学校内で中学校に行く時に分かれても、子どもたちの柔軟性も期待してもいいと思うので、まずは小学校を決めてから中学校を決めてもいいと思う。</p> <p>引き続き、他の委員の意見はどうか。</p> <p>中学校については、柔軟に後から考えられる。2クラスに満たなくなってしまう計画案②についてだが、子どもの数がそもそも減っているのでこれは仕方ない。バランスを保つために学区編成をして、人数が足りない学校は少し増やすようにしてバランスを取ればいいと思う。</p>
	委員	
	委員	
	委員長	
	委員	

	委員	<p>具体的な計画案に書いてある人数は、あと6年後のことなので増えたり減ったりすると考えられる。どこの中学にいくかも決まっていないうし、中学校の話よりも小学校の再編成を考えていった方が私はいいと思う。建て直しとなるとお金がかかるので、例えば通学距離2kmを超えている子たちをスクールバスにするなどが決まった後に考える方がいいと思う。</p>
	委員	<p>今の段階で中学校の建て替えありきで議論するのは時間をもったいないと感じる。西中と南中の既存の建物を中心に小学校をどう編成していくか考える方が建設的だと思っている。また、地元から小学校がなくなるのはさみしいことだと思うが、前回別の委員さんが最後のまとめでおっしゃっていた、小規模特認校制度という、そこに通いたい、少人数で教育を受けたい人が行く学校の制度を利用するのが良いと思う。私も調べてきたが、全国各地でも採用しているところがある。違う形でメリットやデメリットがあるが、地元の小学校も残しつつ、特色ある学校をまた羽生市で新たに作るのもおもしろい。そのようなことも試みとして議論してもよいのではないか。この小規模認定校については、羽生市だけではなく日本全国で不登校の児童生徒が多いので、そういう受け入れ先として一つあるのも羽生の魅力になって良いと思う。</p>
	委員	<p>中学校の問題が出ているが、羽生市公共施設個別施設計画が令和3年に出ている。この資料を見ると、南中はできてからまだ40年である。西中はまだ1号館が24年、2号館が17年しか建っていない。まだまだ使用できる年数があるので、羽生市としても絶対壊さないと思う。中学校が移転することは今の時点で考えられない。一貫校になるかどうかは別として、それを論議するのはあと20年も30年も先ではないか。やはり今は小学校の編成を考えた方がいいと思う。</p>

	委員	<p>小中一貫が将来的な目標かもしれないが、羽生市の財政状況を考えた場合、やはり現在の東中と南中と西中を中心に、これに付随する統廃合しか考えられないと思う。その中で、皆様と集中的に討議しなければならないのは、1クラスの学年が果たして子どもたちの幸せにつながるのかである。私の個人的な見解であるが、ある程度充実した施設で、熱心で優秀な先生の下で、環境もそれなりに整った所で教育を受けるのが子どもたちにとって一番幸せなことかなと思う。</p> <p>また、昨今のスポーツ界などいろいろな分野で日本人が世界で活躍している。やはりそういう方たちは、若い時から大勢の中で切磋琢磨したり、その中で優れた才能を見い出されて成長していったりしてきたと思う。そのような環境や状況は少ないと思うし、スポーツに限らず勉強も、文化の世界でも、まず大勢の中で自分の好きな分野を見つけたり育てていったりするの、教育の大事な目的である。やはり私は、1クラス制にこだわるよりは、クラス替えのできる環境で、大勢の友だちの中で成長していった方が子どもにとって幸せかなと思う。</p>
	委員	<p>資料を基に、羽生北小の合併が一つ。岩瀬小の合併が二つ。この辺は、数字的に見て、あるいは環境といろんな条件を見て、やむを得ないと思う。いろいろ考えなければならないこともあると思うが、この二つはそれなりに進めるべき。</p> <p>もう一つは新一小の件である。これは微妙なところで、検討しなければいけない。地域のコミュニケーションの場や防災上の利点を含めて、今後、市が担保するのかと地域の方と話している。もう一つは、市の説明の中で、歩いて通学することが良いとあったが、道一本で同じように通っていた子たちが徒歩とスクールバスで分かれるのは切ない。そのような話も地域で聞いている。道一本で、汗をかいて通学する子と、バスから手を振る子がいるのはどうなのか。それについては準備委員会で検討してほしい。</p>

	委員	<p>まず小学校の再編成を第一に考えて検討していった方がいいのではないかと。この計画案をもう少し煮詰めていく方向で進んだ方がよい。また各中学校の位置は変わらずに、そこに基づいての再編成だと思う。中学校も耐震は心配ないので、今の中学校に通えるような小学校の編成にした方がいい。</p>
	委員長	他の委員はどうか。
	委員	他の委員さんのように、中学校も大事だが、小学校の学区から編成を考えた方がいい。
	委員	<p>個人的な体験の話だが、私が小学生の時は、人数が多く2クラスに分かれたが、上下の学年は1クラスだった。今この年になって同窓会をするときに、上と下の学年の人たちはとても仲が良い。2クラスに分かれたところは、少し絆が薄く感じる。</p> <p>子どもたちが一流の者になれるように教育をしているのかもしれないが、小学校時代に限っては、2クラスにならなくても、中学からで十分かなと思う。小学1年生のときから複数のクラスで学校を経験させるよりも、手厚く、落ちこぼれのないような形で学校生活を送るのが良い。1クラスだった上下の学年を羨ましいという思いを私はいまだにもっている。</p>
	委員	<p>提案の計画案のとおり進めていった方がいいと思う。一部の地区でコミュニティーが壊れる心配などいろいろな問題があるかと思うが、地区で検討し、自治会等も協力しながらやっていけばいいかなと思う。</p> <p>南小学校、南中学校の区域でも、井泉小学校、東中学校に通う方が通いやすい地区もある。通学する学校については柔軟性をもたせてこれからやってくれたらと思う。道路一本を隔てて、西中や南中に通うというのではなく、子どもたちが通いやすい学区にする必要があると思う。</p>

	委員	<p>審議会の設立の部分、基本的な部分を考えると、やはりここで進めるべきなのは小学校の再編成である。先ほど他の委員から話が出た中学校の設立からの年数や予算についても考えると、中学校については現状、既存の建物をベースにして再編を考えていかなければいけないと感じた。</p>
	委員	<p>事務局が提案した具体的な計画案①②③についてである。これはよく考えられていて、生まれたばかりの子が6年先に小学1年生に入った人数まで考えられるような計算になっている。基本的に私はこれでいいかなと思う。</p>
	委員	<p>具体的な計画案②についてである。 上岩瀬地区には岩瀬小にかなり近いところもある。新郷第一小に行くよりも岩瀬小に行く方が近いのではないか。あくまでも案で進んでいると思うが、その子どもたちの希望や親の希望を考慮して最終的に判断することになるのか。</p>
	委員長	<p>学区については柔軟に対応した方が良いという意見も出ていた。</p>
	委員	<p>地区の境目の人は、近いという理由から、例えば実際に小須賀地区の一部の方は川俣小ではなく新郷第一小に通っている方も昔からいた。具体的な計画案②の仮の人数について、新郷第一小の児童数70名に2km圏内にある大字を学区に編入すると、約100名に増えることになるが、ここまではいかなさうと思う。そうするとやはり2クラスにする基本方針から外れることになる。地元の方からも川俣小はまだ残したいという声も聞く。この会議はまた来年もあるので、地域全体の中で説明会をやっていただきたい。何年か前に市で説明会をしていたが、再編成の意識が高くなかったために参加した人数が少なかった。もう少し具体的になったときに、市からも説明をしていただきたい。</p>

	委員	<p>もう1点、他の委員が言ったように、私は小学生の時は1クラス40名で、6年間ずっとやってきた。人の繋がりは強いと感じる。そのため、必ずしも2クラスにする必要があるのかとも考える。</p> <p>私は1学級でも良いと思う。それは、不登校をどうやってフォローしていくのかという問題がある。3クラスで1クラスが30人いるのと、1人の先生が1クラス10人を見るのとは全く違う話である。</p> <p>市内小・中学校で不登校がこんなに多いのは、手が回ってないということではないか。フォローをどれだけの子どもが待っているのかと思う。その辺も考えてもらいたい。人数が多ければ多いほど良い、クラスが多いほど良いということではない。人数が多くなれば、優れた子どもや能力の高い子どもだけが集まり、そうではない子どもは置いていかれるのではないか。そういう状況はあってはならない。2クラスでクラス替えがあれば良いという考え方もあるかもしれないが、クラス替えがなくても、そのままずっと交流して成長していくような「へき地教育」という言葉もある。</p>
	委員長	<p>貴重な意見がいろいろと出たが、他に意見のある委員がいればお願いしたい。</p>
	委員	<p>先ほどの私の発言について説明したい。まず中学校区を先に、遠い将来のことを考えてと発言したが、遠い将来というのは、今の財政がどうということではない。もっとずっと先のことと受け取っていただきたい。中学校は今3校ある。そして通う小学校によって、通う中学校はこちらと決められてしまう。今、新郷第一小の児童は西中に行くが、これが岩瀬小に編成する案があって、岩瀬小に行く児童は南中に行くことと決められている。</p>
	委員	<p>岩瀬小は全員南中に行くのではなく、現在は南中と西中に行く子で分かれている。</p>

	委員	<p>中学校区をできるだけ変えないでほしいというのが私の考えである。また、遠距離の通学はできるだけやめてほしい。それから市の財政のことで、お金をかけて中学校を移転することは考えていない。ただ、それは将来的には当然今の場所から移動することもある。中学校も3校から2校、あるいは1校にする話も遠い将来には当然出てくるだろう。防災のことを考えれば、今ある場所よりもこちらの土地が良いという話も当然出てくる。この場所で決めることではないが、そういうことも頭の中で当然考えていった方が良さだろうと思う。自分の地区に小学校を残すとか残さないとか、そういうことだけではない。市全体の自分の地区以外のことも考えるべきだと言ったものである。</p>
	委員	<p>小学校の編成を変えたときに、通う中学校まで変わってしまわないようにということだと思う。小学校再編成もなるべく今の中学校と同じような感じの小学校再編成の方が良いという話だと捉えている。私もそういうイメージである。</p>
	委員	<p>何年か前の考えや議論の中では、一つの中学校に二つの小学校という話だったと思う。そのため、どの小学校に通うかで中学校は自動的に決まるのだと考えていた。</p>
	委員長	<p>事務局から整理をお願いします。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>基本方針の中では3中学校は変わらず3中学校、現在ある施設を活かしていく方針となっている。中学校だけを考えた場合は、3中学校が現在のまま残った上で再編成を考えていく。再編成に当たっては、小中一貫校を目指してということになる。小・中学校を一つの施設に入れるのではなく、施設は分かれるが、既存の建物を生かしながらカリキュラム等を含めて小中一貫校とする、施設分離型が現在の考え方である。校舎は鉄筋コンクリートで作られているため、建て替えが想定されるのは20年も30年も</p>

		<p>後である。改修ではなく建て替えなければいけなくなるとき、児童数を見て、もしかすると小学校の機能をそこに入れて一つの大きな学校とする可能性もある。しかしそれは今の段階では決められない。</p> <p>ただ、中学校の学区をどうするかまでは完全に決まっていない。途中議論であったとおり、現在岩瀬小学校は、南中学校に入る児童と西中学校に入る児童に分かれる現状がある。学区についても小学校の再編成として考えていただきたい。</p>
	委員	<p>一つの中学校に二つの小学校で一つの中学校区になるわけではないことということか。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>そのとおりである。</p>
	委員	<p>一つの中学校に二つの小学校というのは2年前の案だと思う。今はその案は関係ない。</p>
	委員	<p>授業の内容も、中学校と小学校は全く別ということか。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>いわゆる中1ギャップがある。小学校から中学校に上がったときに、ギャップに苦しんでしまうものである。いろいろなやり方があるが、例えば、小学校6年生から中学校に行って授業をして慣れていくという方法や、中学校の先生がカリキュラムの中で小学校に来て授業をする方法もある。小中一貫校でも授業の交流の機会がある。</p> <p>一つの中学校に二つの小学校というのは決まっていない。</p>
	委員	<p>1クラスが悪いわけではなく、今の子どもたちを知ってほしいということで発表させてほしい。市内の小学校には、多種多様な子どもたちがたくさんいる。みんなと一緒に学校生活を送っている状況を皆さんに分かっていただきたい。1クラスだけの場合、そういう子のことを知らずにいきなり中学校に行っその子たちと接することになってしまい、どうす</p>

	<p>ればいいのか分からなくなる。羽生市はますます多様な地域になってくる。ただ1クラスや2クラスが良いというだけではなく、多様性についても考えていただければと思う。逆に言えば、1クラスにそういう子がいたら仲間外れにされるかもしれない怖い面もある。現状もう市内には、地元ではない方々も住んでいる。本当に多種多様な地域になってきていると思うので、その辺も考えていただきたい。</p> <p>委員</p> <p>市の財政事情の御心配についての発言が出たことは、非常に有り難く心強く思う。学校の再編成の目的としては、羽生市の将来の子どもたちにとってよりよい教育環境を整えることである。やはり子ども目線、子どもたちのためが大前提で、基本的な考え方が三つある。一つ目が学級数の維持、二つ目が小・中学校の一貫教育、三つ目に学校施設の集約という財政上の理由もある。</p> <p>学校の再編成で財政ありきの話をしてしまうと、市にお金がないから学校を減らしたいのではと話が流れてしまい、再編成の趣旨がずれていってしまう。しかし今日は、逆に委員さんからそういった心配をいただいたので、少しお時間をいただいて簡単に話したい。今羽生市には81の施設があって、そのうちの84%ほどが築30年くらい経過している。高度成長期のときに、どこの市町村も全国的に公共施設をたくさん作った。人口も右肩上がりでもまだ増えて、税収の心配がなかったが、今日超がつく少子高齢化社会になってきて、子どもが減っている。これは、今後、税収を収める人たちが少なくなることであり、財政規模を小さくしなければいけない。そのため、国でも全国的に公共施設の数を市町村の規模に合わせて減らす方向性を示している。例えば、羽生市は1年間当たり大体施設のメンテナンスも含めて7億円から8億円ぐらいだが、築30年を迎えて大規模修繕、あるいは建て替えを考えていくと、これから40年間で640億円ぐらいかかる。これは1年間に直すと大体今の倍以上はかかる計算になる。それを子どもたちが大人になったときに税金と</p>
--	---

		<p>して払うことは難しいので、やはり負担となる公共施設を減らしていかなければいけない。そのため、公共施設の総合管理計画を作っている。</p> <p>その中で、81の施設の面積のうち、大体半分は学校の施設である。財政上の問題があるから減らさなきゃいけないということでは決してないが、やはり集約化ということもきちんと再編成の際に考えていかないと、未来の子どもたちに借金を残すことになる。例えば、議論の中で出た新築の学校に20億円かかるのが出せるのかという、本当に御心配のとおりである。そのときの税収を収めてくれる人たちが払えるのかということも頭の片隅に置いてもらわないと、未来の子どもたちに負担を残してしまうことになる。また、国でも今なら財源措置がある。例えば施設を集約化すれば、その修繕に対して90%借金したうちの半分を国が補助してくれる制度がある。井泉小学校はそれを使い大規模修繕するので、かなりの財源を国からもらうことになり、今後の子どもたちの負担を軽減することができている。ところが、再編成が進まなかった場合、修繕する際にその財源が使えず、全て市の負担となる。それは将来子どもたちが払うことになる。もちろん、それがあるから再編成を早急にやらなくてははいけないという意味ではない。</p>
(2) その他	<p>委員長</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>副委員長</p>	<p>議事(2)その他について、意見・質問を求めた。</p> <p>次回は、12月20日水曜日、午前10時からワークヒルズ羽生で開催する。</p> <p>本日の協議の内容を事務局で集約し、課題等を整理する。次回の会議においては、それを基にグループワークにて協議していただく予定である。</p> <p><福田副委員長あいさつ></p>
4 閉会	委員長	<p>羽生市立学校適正規模審議会(西・南中学校区)を閉会する。</p>

【配布資料】

第4回会議（令和5年10月5日）の協議資料